

令和 6 年 度

事業報告書

《社会福祉法人ふたば会》

令和6年度は、各施設での利用者の生活が新型コロナウイルス流行前の生活に戻りつつあるなか、新型コロナウイルスのみならずインフルエンザなど他の感染症が流行し、そのため施設毎に必要な感染対策を実施して参りました。各施設で利用者や職員・職員家族の感染報告を受けておりましたが、重症化したという報告がないことがせめてもの救いであり、また、関係の皆様のご協力には感謝申し上げます。

法人理念の下、当法人は45年の歴史と共に地域社会との信頼関係を構築し、質の向上とガバナンスを高めていくことが重要と考え、地域共生・情報公開・苦情解決などに取り組んで参りました。また、令和6年度介護報酬改定の対応、人材の確保・育成、ふたば荘の建替検討、生産性向上対応など、各項目において次のとおり取り組みました。

1 サービスの質の向上

①人材確保については、新卒・中途採用募集のみならず在職職員からの紹介を中心に募集を行った結果、人材確保に繋がった。また、介護職員処遇改善加算（Ⅰ）が算定出来るよう対応した。

②人材育成については、前年度に引き続き法人内研修として福祉実務能力向上研修を実施し、研修の充実化を図った。また、認知症介護指導者研修受講をはじめ介護福祉士・認知症介護実践者研修等の資格取得支援を実施した。

2 地域福祉サービスの創造と展開

①船木校区夏祭りをはじめ地域行事へ積極的に参加しました。また、地域交流会・クリスマス会等交流行事を再開し、地域との繋がり信頼関係の醸成につとめた。

②ホームページをリニューアルし、各施設の情報公開・求人募集・苦情報告を実施した。

3 持続可能な経営基盤の確立

①令和6年度介護報酬改定については、新たな要件に対応したサービス内容となるよに質の向上に取り組みました。

②生産性向上の取組として、ふたば荘において全床に見守りシステム及びインターカムを導入し、安全性と生産性の向上に取り組みました。

③ふたば荘建替については、資金計画をはじめ建設用地の検討調整及び行政との調整を行いました。

1.施設の概要

法人の沿革

昭和53年	8月	4日	社会福祉法人ふたば会設立
昭和54年	4月	5日	特別養護老人ホームふたば荘開設（定員50人）
昭和57年	4月	1日	特別養護老人ホームふたば荘定員80人変更開所
平成9年	4月	1日	デイサービスセンターふたば荘及び 在宅介護支援センターふたば荘事業開始
平成11年	10月	25日	居宅介護支援事業指定（3870500174）
平成12年	1月	5日	訪問入浴介護事業指定（3870500232）
平成12年	2月	25日	通所介護事業指定（3870500323）
平成12年	3月	17日	短期入所生活介護事業指定（3870500505）
平成12年	4月	1日	介護老人福祉施設指定（3870500570）
平成19年	9月	30日	訪問入浴介護事業廃止
平成23年	4月	19日	特別養護老人ホームふたばの森設置認可
平成23年	4月	22日	特別養護老人ホームふたばの森指定（3890500238）
		〃	グループホームふたばの森指定（3890500220）
平成23年	4月	28日	ショートステイふたばの森指定（3870502162）
		〃	デイサービスセンターふたばの森指定（3870502154）
平成23年	5月	1日	ふたばの森各事業所事業開始
平成27年	5月	31日	デイサービスセンターふたば荘事業休止
令和2年	3月	31日	デイサービスセンターふたば荘事業廃止
令和4年	9月	1日	短期入所生活介護事業所ふたば荘定員変更（定員6人）

法人の土地・建物・定員

【所在地】 新居浜市船木字上原甲959番地1～4，962番地 985番地
974番地1 977番地1 980番地1，2，3

【敷地面積】 15，004.27㎡

《特別養護老人ホームふたば荘》

（補助）

（建物構造） 鉄筋コンクリート造一部2階建

日本自転車振興会

（建物面積） 1，999.68㎡

193，220千円

（定員） 80人

新居浜市

15，000千円

《在宅介護支援センターふたば荘》

(建物構造) 鉄骨造平屋建

(建物面積) 71.15 m²

県 補 助

22,319千円

新 居 浜 市

14,870千円

【所 在 地】 新居浜市船木字元船木甲3101番地1、甲3102番地2、
甲3098番地

【敷地面積】 4,552 m²

《特別養護老人ホームふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 1,903.82 m²

(定 員) 29 人

(補 助)

新 居 浜 市

177,975千円

《ショートステイふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 496.44 m²

(定 員) 16 人

《デイサービスセンターふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 287.4 m²

(定 員) 35 人

【所 在 地】 新居浜市船木字元船木甲2999番地7、甲3001番地3

【敷地面積】 999.37 m²

《グループホームふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 665.85 m²

(定 員) 18 人

(補 助)

新 居 浜 市

52,612千円

3.令和6 年度人事

(令和7年3月31日現在)

	職 名	氏 名	採 用 日	備 考
採 用 18人	管理栄養士	徳 永 恵	令和 6年 4月 1日	森特養
	介護職員	曾我部 智 子	令和 6年 4月 1日	森特養
	介護職員	森 川 麻 里	令和 6年 4月 1日	G H
	介護職員	近 藤 洋 子	令和 6年 4月 1日	G H
	パート介護職員	楠 本 知 沙	令和 6年 4月 1日	G H
	看護職員	横 田 美 優	令和 6年 6月 1日	森デイ
	パート看護職員	伊 藤 祐 子	令和 6年 6月 10日	森デイ
	パート介護職員	芥 川 路 子	令和 6年 7月 1日	森デイ
	機能訓練指導員	岡 添 早 那	令和 6年 7月 16日	森デイ
	パート介助員	加 藤 俊 彦	令和 6年 10月 1日	森特養
	パート介護職員	星 山 み の り	令和 6年 10月 1日	デイ
	調理員	塩 崎 悦 子	令和 6年 10月 21日	荘特養
	介護職員	曾我部 晶	令和 7年 1月 1日	G H
	パート介護職員	西 岡 典 子	令和 7年 1月 6日	森特養
	介護職員	佐 光 かおり	令和 7年 2月 1日	森特養
	栄養士	近 藤 智寿子	令和 7年 2月 1日	森特養
	パート介助員	近 藤 佳 栄	令和 7年 2月 12日	荘特養
	パート看護職員	武 井 百合子	令和 7年 2月 18日	G H

(令和 6 年 3 月 3 1 日現在)

	職 名	氏 名	退 職 日	備 考
退 職 1 0 人	パート介護職員	榑 政 彦	令和 6 年 5 月 3 1 日	荘特養
	介護職員	曾我部 智 子	令和 6 年 8 月 3 1 日	森特養
	調理員	渡 邊 栄 治	令和 6 年 9 月 3 0 日	荘特養
	パート介護職員	星 山 みのり	令和 6 年 1 0 月 1 日	デイ
	介護職員	森 めぐみ	令和 6 年 1 2 月 1 5 日	森特養
	パート介助員	佐 伯 妙 子	令和 6 年 1 2 月 3 1 日	荘特養
	介護職員	阿 部 浩 司	令和 7 年 3 月 3 1 日	荘特養
	施設長	二 宮 哲 彦	令和 7 年 3 月 3 1 日	森特養
	パート看護職員	伊 藤 祐 子	令和 7 年 3 月 3 1 日	森デイ
	パート看護職員	白 石 みどり	令和 7 年 3 月 3 1 日	G H

2. 職員現員

ふたば荘

(令和7年3月31日現在)

職員部門	特養（ショート含）	デイサービス	支援センター	居宅介護	合 計
施 設 長	1				1
相 談 役	1				1
総 務 部 長	1<1>				1<1>
事 務 員	1				1
生 活 相 談 員	2				2
機能訓練指導員	2				2
ソーシャルワーカー			1<1>		1<1>
介護支援専門員	1<1>			4	5<1>
主任介護職員	1<1>				1<1>
介 護 職 員	35【9】				35【9】
介 護 助 手	3【3】				3【3】
医師（嘱託）	3（3）				3（3）
看 護 職 員	4				4
管 理 栄 養 士	2<1>				2<1>
栄 養 士	1				1
調 理 員	5【1】				5【1】
清 掃 員	5【5】				5【5】
合 計	67(3)【18】<2>		1<1>	4	72(3)【18】<4>

※ （ ） 嘱託 【 】 パート < > 兼務

ふたばの森

(令和7年3月31日現在)

職員部門	特養	デイサービス	ショート	グループホーム	合 計
施 設 長	1				1
事 務 員					
生 活 相 談 員	2<2>	2<1>	1<1>		5<4>
管 理 者				1	1
機能訓練指導員	1	1			2
介護支援専門員	1<1>				1<1>
介 護 職 員	15【3】	5【2】	6	16【5】	42【10】
医 師（嘱託）	3（3）				3（3）
看 護 職 員	2	2	1	1【1】	6【1】
管 理 栄 養 士	1				1
調 理 員	5【2】				5【2】
清 掃 員	2【2】				2【2】
合 計	32(3)<3>【7】	10【2】<1>	8<1>	18【6】	67(3)【15】<5>

※（ ） 嘱託 【 】 パート < > 兼務

特 別 養 護 老 人 ホ ー ム
短 期 入 所 生 活 介 護 事 業 所
在 宅 介 護 支 援 セ ン タ ー
居 宅 介 護 支 援 事 業 所

ふたば荘

特別養護老人ホームふたば荘

1. 総務及び経理

事業所内での新型コロナウイルス感染症などの蔓延防止に注力し、安心して過ごせる生活環境の確保に努めながら、地域との交流、他者との触れ合いを取り戻し、生活への刺激へと繋げた。

また、介護テクノロジー等の導入により人材不足を補い、生産性向上に努め、サービスの質の向上のための体制を整えた。

目標及び課題	成果等
(1) サービスの質の向上	① 当初計画していたナースコールの入替、スマートフォン、インカムの連動、眠りスキャン（見守りロボット）の導入と連携にて、生産性向上に向けた取り組みを開始する事が出来た。また、委員会の設置により、更なる効率化と職員負担の軽減を目指し、サービスの質の向上に繋げる体制を整えた。
(2) 持続可能な経営基盤の確立	① 介護テクノロジー定着支援事業費補助金の受給や、物価高騰を意識した経費節約により運営を維持することが出来た。また、報酬改正による加算要件を維持し、加算取得等により安定した収入確保に繋げた。
(3) 感染症対応と予防対策	① 新型コロナウイルス感染症等の施設内での発生時には対応に注力し、重傷化等を防ぎ収束することができた。更に感染予防対策を意識し、継続的に実施している。
(4) 地域福祉サービスの創造と展開	① 感染対策を行いながら、地域の方々とも交流を取り戻すことが出来た。今後、更なる新たな課題への対応や、信頼関係の構築に繋げたい。

2. 相談及び援助

総合目標及び課題

利用者がその人らしい生活を送れるよう、多職種や家族・地域と連携・協働してサービスが提供できるよう努めた。

目標及び課題	成果等
(1) サービスの質の向上	① 施設内では利用者の要望があれば関係職種と協議して生活の幅が広がるような支援に努めた。以前よ

(2) 利用者処遇	りご意見箱の設置や苦情への取り組みを行っており、共に寄せられた件数は0件だった。 ① 外出希望がある利用者については施設サービス計画書に盛り込むなど可能な限り個別支援を提供した。その他、関係職種と情報の共有を行い、ご本人の意向を優先できるように努めた。
(3) 稼働率の維持向上	① 感染症による利用中止の影響もあり、ショート平均稼働率は89.2%・特養が95%と目標値には届かなかった。3ヶ月毎の入所判定会の待機者が0人になってしまうことが4回あり、臨時で入所判定会を行うことで空床の解消に努めた。
(4) ICT化への取り組み	① ケア記録を活用しながら職種間で情報を共有に努め、必要に応じて家族とも情報の共有を図った。

3. 介 護

総合目標及び課題

集合研修及びオンライン研修に積極的に参加したが、勤務調整の影響で参加出来ない研修もあった。次年度は、人員確保を工夫し、多くの研修に参加出来る様に取り組むことが課題となった。

目標及び課題	成果等
(1) 統一した教育 (ストップ自己流)	① 研修後に振り返りの時間を確保、研修で得た学びを事業所全体で共有できるよう、学びの場の確保に努めた。 ② 認知症介護実務者リーダー研修等を受講し、指導的職員の育成を行った。
(2) 介護業務の効率化	① インカム、見守りシステムの導入を行う事で情報伝達・共有がスムーズに行なえる様になった。
(3) 報連相の充実	① 電子掲示板を活用し、リアルタイムに情報共有することが出来た。 ② 各グループでは、グループの電子掲示板を活用し情報共有に努めた。また、ケア記録を活用し、多職種との情報を共有する事で、常に利用者の変化に気付けるよう努めた。

(4) 接遇の改善	① 接遇委員会や虐待防止委員会が中心となり、毎月各グループで日頃の業務を振り返り、より良い接遇に努めた。
(5) 安全に安心できる生活環境作り	① 施設内の整理・整頓・清潔を保つように努めた。また、備品の管理を行い、安全に使用できるよう整備等に努めた。

4. 厨房

総合目標及び課題

健康で安らぎのあるその人らしい暮らしが送れるよう、適切で安全な食事の提供を実施した。

目標及び課題	成果等
(1) サービスの向上	① 家族からの持込食品などについては、利用者の体調や状態等を配慮した上で、必要であれば加工し利用者に適切な形態で提供した。 ② 利用者ニーズを把握した上で、旬の食材や栄養価の高さにこだわった行事食を提供できるよう取り組んだ。
(2) 地域貢献	① 近年新型コロナウイルス感染症の影響で開催できていなかった地域交流を10月に開催し、いもたきなどの料理を振る舞い地域貢献できた。
(3) 発注の見直し	① 相談員と連携し、適時利用者数の把握をしながら発注数を最適化して食品ロスの削減に努めた。 ② 物価高の影響から品質・価格を考慮し、無駄を省くことを意識し見直しを行った。

5. 機能訓練

総合目標及び課題

個別機能訓練計画書を作成及び3ヶ月毎に見直し、心身機能維持・向上も目的に、利用者に適した訓練内容を作成した。安全に過ごすことのできる、居室環境を検討し他職種と共有・実施した

目標及び課題	成果等
(1) 利用者の心身の諸機能の維持、改善を目的とした生活リハビリの充実	① 利用者の心身の定期的な評価を実施し、その評価をもとに機能訓練を実施した。また、ケアプラン策定時に利用者の身体状況や生活環境について多職種と共有し、個別リハビリ・生活内リハビリを安全に実施することができた。
(2) 利用者への安全な介助方法、介護者の負担を軽減させる介助方法の指導	① 利用者の身体機能に適した介助方法の指導、福祉用具の選択をカンファレンス等を通して実施した。介助方法や環境設定の周知に時間を要することがあったため、統一した介助を行えるよう改善が必要。
(3) 褥瘡予防、改善へのアプローチ	① 褥瘡リスクの高い利用者に対してはポジショニングシートの作成・共有を行った。利用者の状態の変化に伴いポジショニングシートの更新を行った。

6. 健康管理

総合目標及び課題

入所者の疾病を理解し、日頃のコミュニケーションから本人のニーズを把握し、多職種と連携・協力のもと、安心して生活が送れるよう援助した。また、健康状態の維持や早期発見・治療を行い悪化予防に努めた。

目標及び課題	成果等
(1) 日常生活の健康管理及び質の向上	① 利用者の健康状態などの記録をＩＣＴを活用して情報共有・分析を行い健康増悪の早期発見や多職種との連携を密にし、穏やかな日常生活が送れるよう援助した。 ② 状態変化が認められた場合には、利用者・家族に十分な説明・報告をし、施設での治療もしくは受診希望等を確認・提案することで早期対応に努めた。
(2) 安全な日常生活が送れる	① 多職種と協力し感染対策・褥瘡予防に努めたが、新型コロナウイルス感染症のクラスター及び褥瘡発生がみられた。なお、新型コロナウイルス感染症クラスターについては、前年度よりも発症人数・対応期間を抑えることができた。

7. 職員研修参加状況(ふたば荘)

月	日	内容	場所	出席者
4	25	東予老施協総会・施設長研修会	今治市	施設長
5	30	愛媛県老施協第1回総会・施設長研修会	松山市	施設長
	31	県社協特別研修「介護保険制度改正」	松山市	入所部長
6	5	介護技術向上講習会「ノーリフティング」	松山市	介護職員1名
7	8	処遇改善加算実績報告書作成セミナー	Zoom	総務部長
	9	第19回愛媛県老人福祉施設大会	松山市	機能訓練指導員・介護職員1名
	10	社会福祉法人会計研修「入門編」	松山市	事務員1名
8	2	介護技術向上講習会「接遇」	松山市	介護職員1名
	22~23	第71回四国老人福祉施設大会	徳島市	主任生活相談員・事務員1名
9	11~13	令和6年度熊本地震福祉避難所運営視察研修	熊本県	総務部長
	9~13	認知症介護実践者リーダー研修	松山市	主任介護職員
	17	社会福祉法人セミナー業務改善マニュアル	松山市	入所部長
	17	令和6年度雇用管理責任者講習会	松山市	総務部長
	27	養介護施設従事者等による高齢者虐待に関する研修会	伊予市	介護職員1名
10	8	令和6年度特定給食施設等関係者研修会	西条市	栄養士
	22	令和6年度雇用管理責任者講習会	松山市	総務部長
	23	東予老施協介護支援専門員研修会	今治市	主任介護職員
11	21	令和6年度介護職員レベルアップ講習会①	Zoom	介護職員1名
	14	認知症介護実践者リーダー研修	松山市	主任介護職員
	20~22	第3回全国老人福祉施設大会・研究会議	滋賀県	施設長・介護職員1名
	26	介護技術向上講習会「移乗・移動」	松山市	介護職員1名
	27	東予老施協介護職員研修会	四国中央市	介護職員1名
12	7	新居浜市社会福祉大会	市内	施設長
	19	令和6年度介護職員レベルアップ講習会③	Zoom	介護職員1名
1	16	令和6年度介護職員レベルアップ講習会④	Zoom	介護職員1名
	17	令和6年度介護職員レベルアップ講習会⑤	Zoom	介護職員1名
	28	令和6年度退職共済実務研修会及び福利厚生センター担当者研修会	Zoom	事務員1名
	29	第22回四国老施協セミナー	高松市	施設長
2	7	令和6年度新居浜市認定調査員現任研修	市内	主任介護職員・主任看護職員
	26	東予老施協総会・施設長研修会	市内	施設長
3	7	愛媛県老施協第2回総会・施設長研修会	松山市	施設長
	12	令和6年度経営戦略セミナー(第1弾)	Zoom	総務部長
	14	ICT導入セミナー	Zoom	施設長
	19	令和6年度経営戦略セミナー(第2弾)	Zoom	総務部長
	24	処遇改善加算計画書作成セミナー	Zoom	総務部長

8. 事業実施状況

月	保健衛生	施設管理	施設整備等	職員厚生	その他
4	/27 調理員検便	/17 奉仕デー 倉庫整理		/3 職員健康診断・順風会	/19 法人研修 /26 内部学習会
5	/1 寝具納品 /1 入居者健康診断 /9 寝具引取 /23 調理員検便	/15 奉仕デー	/22 消防立入検査 /31 非常用発電機点検		/10 はあとねっと発行 /17 法人研修 /22 避難訓練 /31 内部学習会
6	/27 調理員検便	/21 消防設備点検 /19 奉仕デー			/21 法人研修 /26 内部学習会
7	/25 調理員検便	/11 駐車場除草作業 /11 奉仕デー			/10 はあとねっと発行 /19 法人研修 /24 内部学習会
8	/23 調理員検便	/21 奉仕デー	/7 貯水槽検査		/15 船木校区夏祭り /16 法人研修 /20 内部学習会
9	/28 調理員検便	/25 奉仕デー			/10 はあとねっと発行 /20 法人研修 /20 内部学習会
10	/19 インフルエンザ予防接種(入居者) /16 調理員検便 /22 寝具納品 /30 入居者健康診断	/23 奉仕デー		/2 職員健康診断(夜勤者) /15～22 インフルエンザ予防接種(職員)	/21 内部学習会 /25 法人研修 /4 地域交流会
11	/4 寝具引取 /20 調理員検便	/13 奉仕デー /29 受水槽清掃 /9 電気設備年次点検			/9 合同避難訓練 /10 はあとねっと発行 /15 法人研修 /18 内部学習会
12	/18 順風会利用者レントゲン撮影 /19 調理員検便	/30 奉仕デー	/24 消防設備点検		/20 法人研修 /23 実践発表
1	/23 調理員検便	/22 奉仕デー	/21 ナースコール改修工事 /24 フローリング洗浄 /27 見守りシステム導入(眠りSCAN)		/10 はあとねっと発行 /17 法人研修 /22 内部学習会
2	/21 調理員検便	/12 奉仕デー			/19 内部学習会 /21 法人研修
3	/25 調理員検便 /26 順風会利用者レントゲン撮影(4名のみ)	/12 奉仕デー /19 浄化槽法定点検			/10 はあとねっと発行 /13 防犯訓練 /19 内部学習会 /21 法人研修

9.特養利用者の概要

(1)利用者の状況

令和7年3月31日現在

保険者別入所状況

保険者別	男	女	計
新居浜市	16	59	75
四国中央市	1	3	4
大阪市	1	0	1
合計	18	62	80

在所期間の状況

期 間	男	女	計	比率(%)
20年以上	0	0	0	0.0%
15年以上～20年未満	0	0	0	0.0%
10年以上～15年未満	0	4	4	5.0%
7年以上～10年未満	1	4	5	6.3%
5年以上～7年未満	2	4	6	7.5%
3年以上～5年未満	2	20	22	27.5%
1年以上～3年未満	7	18	25	31.2%
1年未満	6	12	18	22.5%
合 計	18	62	80	100.0%

利用期間が3年未満の方で全体の53.7%を占め、全利用者の平均利用期間は3.33年となっている。

年齢構成

区分	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	合計	平均年齢
男	1	3	3	7	2	0	2	0	18	75.8
女	0	1	3	8	7	17	17	9	62	86.7
合計	1	4	6	15	9	17	19	9	80	84.3

①90歳以上の利用者は全体の35%を占めており、平均年齢は84.3歳となっている。

②最高齢者は、男性は93歳、女性は100歳で、最も若い利用者は、男性54歳、女性66歳である。

要介護度の状況

〔要介護度〕

	自 立	支 援	1	2	3	4	5	合計	平均
男 性	0	0	0	0	2	7	9	18	4.39
女 性	0	0	0	0	19	16	27	62	4.13
合 計	0	0	0	0	21	23	36	80	4.19
前年度実績	0	0	0	1	21	26	29	77	4.11

利用者の要介護度は、要介護4・5に認定された方が全体の74%を占めており、平均要介護度4.19となっており、前年度実績4.11からは少し上がっている。

(2)入退所状況

利用者状況

〔月別新規入所者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	3	2	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	9
女	1	4	2	1	1	1	0	2	0	0	1	2	15
計	4	6	2	2	1	1	1	3	0	0	2	2	24

〔入所前住居〕

区分	在宅	病 院			介護施設			その他施設	合計
		一般病棟	精神病棟	療養病棟	介護療養施設	老人保健施設	特別養護老人ホーム		
男	4	9	0	1	0	2	0	2	18
女	30	11	8	4	0	1	1	7	62
計	34	20	8	5	0	3	1	9	80

全利用者のうち64%の利用者の方が施設・病院等からの入所である。

退所者状況

〔月別退所者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	1	3	1	1	0	1	0	2	0	1	0	0	10
女	1	3	1	1	1	0	0	1	0	1	2	0	11
計	2	6	2	2	1	1	0	3	0	2	2	0	21

21名の方が退所となり、死亡退所が10名となっている。

1名は状態改善し他施設（有料老人ホーム）へ転所し、他の方は入院継続のため退所された。

(3)日常生活動作状況・生活自立度・認知症の判定

日常生活自立度（寝たきり度）

〔利用者80名〕

	何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。		
ランク J	1	交通機関等を利用して外出する。	0
生活自立	2	隣近所なら外出する。	0
	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。		
ランク A	1	介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。	1
準寝たきり	2	外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。	8
	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッドの上での生活が主体であるが座位を保つ。		
ランク B	1	車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。	9
寝たきり	2	介助により車椅子に移乗する。	30
	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。		
ランク C	1	自力で寝返りをうつ。	9
寝たきり	2	自力では寝返りもうたない。	23

寝たきりに当てはまるランク B・Cの利用者の方で全体の約90%を占め、重度化が認められる。

認知症老人の日常生活自立度判定

[利用者 80 名]

項 目	痴 呆 の 程 度	
正 常	認知症の症状無し	1
ランクⅠ	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	3
ランクⅡ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。	
	a 家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。	18
	b 家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。	16
ランクⅢ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	
	a 日中を中心として、上記Ⅲの状態が見られる。	19
	b 夜間を中心として、上記Ⅲの状態が見られる。	4
ランクⅣ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ常に介護を必要とする。	14
ランクⅤ	著しい精神症状や問題行動やあるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする	5

80名の内、ランクⅢ以上に位置づけされる利用者の方は53%となっている。

(4)ケアプラン実施状況

[ケアプラン：立案状況]

項目	自立支援	日常生活援助	離 床	医療面	運動	褥瘡 ハリスカ	排 泄	声かけコミュニケーション	整容	転倒予防	栄養
人数	7	24	8	7	3	4	4	12	8	11	2

①個々の内、最も重要と思われるもの各1を挙げている。

②個々のケアプランについては、包括的自立支援プログラム方式により6ヶ月毎及び状態に応じケアカンファレンスにて見直し、サービス計画に基づいて毎日実践しその状況を記録している。

(5)利用者医療状況

疾 病 状 況

順	疾病名	人数	順	疾病名	人数
1	アルツハイマー型認知症	22	10	完全房室ブロック	3
2	脳梗塞後遺症	15	11	統合失調症	3
3	レビー小体型認知症	6	12	小児麻痺	2
4	脳出血後遺症	5	13	進行性核上性麻痺(難病)	1
5	認知症	3	14	高血圧	2
6	混合型認知症	2	15		
7	糖尿病	5	16		
8	慢性心不全	7	17		
9	パーキンソン病	4	18		
			合 計		80

施設利用者年齢が高齢化していることに加え、認知症・脳血管障害が半数以上を占め、自立度が低く介護度が上がっている。複数の慢性疾患及び難病を持っている利用者の入所が増え、受診・入院と複雑化している。

受 診 状 況

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均
実人数	9	12	11	19	8	10	9	8	10	7	14	7	124	10.3	0.34
延人数	9	14	14	21	9	11	9	8	11	8	14	8	136	11.3	0.37

利用者・ご家族の要望での医療機関受診は、積極的に行っている。

入所前より通院されていた病院への定期受診の方が増えている。

誤嚥性肺炎・食事摂取不可など当施設で対応困難である為、医療機関での治療依頼となるため、受診・入院の流れとなることが多くあった。

入 院 状 況

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均 入院人数
実人数	2	7	7	6	8	8	8	4	3	5	5	4	67	5.6	0.18
延日数	56	109	161	106	152	108	118	53	55	95	51	35	1,099	91.6	3.0

慢性疾患・既往があり入退院を繰り返したり、入院中に症状悪化し長期化したり、入院中死亡退院・退所となられる方も複数おいでた。

精神科往診

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均
回数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0
実人数	17	17	17	16	16	16	16	17	18	17	17	18	202	16.8
延人数	34	34	33	32	32	32	32	34	36	33	34	35	401	33.4

入所後、認知症で周辺症状が出現し、医師に相談・診察を受け内服等の治療を受けることや、入所前より精神科に通院しており継続となられる方が増加した。
定期利用者の受診のみで、受診する人数は新規入所・死亡・入院等による増減はあまりみられなかった。

歯科往診

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均
回数	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	11	0.9
実人数	6	3	9	6	8	5	2	5	0	7	4	3	58	4.8
延人数	6	3	9	6	8	5	2	5	0	7	4	3	58	4.8

新規入所者の方の初診が増えた。義歯の不具合、歯の劣化による齲蝕・歯折による受診が多かった。また、協力歯科では対応できず総合病院受診があった。

(6) 身体拘束実施状況

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1. 車椅子拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. チューブ拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3. つなぎ服拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. ミトン型手袋による拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

身体拘束ゼロについては、身体拘束防止委員会を設置し、施設全体で取り組み、利用者の身体拘束を個別に検討し、福祉用具の導入や現在行われている介護を見直し、よりよいケアの実現を目指すよう努めた。

(7) 機能訓練実施状況

個別機能訓練を行うにあたっては、定期カンファレンスで情報共有し、ケアプランと連動、LIFEフィードバックを活用することで個別性のある訓練計画を作成することができた。また、多職種とカンファレンスを実施することにより、利用者の状態を職員全体で把握でき、安全に個別でのリハビリや生活リハビリを実施することができた。そして、個別機能訓練実施内容については、3ヶ月毎に見直し、本人または郵送にて家族の方に説明を行った。

〔個別訓練実施内容〕

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
運動療法	実人数	65	69	65	64	51	68	27	78	77	79	78	803
	延人数	197	185	195	180	133	222	33	1560	1694	1501	1404	8,862
歩行訓練	実人数	20	12	15	11	7	13	4	12	11	12	11	140
	延人数	58	36	42	19	21	29	6	260	264	247	216	1,445
物理療法	実人数	2	3	2	2	2	1	1	2	1	0	1	17
	延人数	25	36	24	14	3	1	1	2	1	0	1	108
ADL訓練	実人数	33	31	26	26	18	26	11	78	77	79	78	565
	延人数	79	89	91	75	55	94	12	1560	1694	1501	1404	8,212

・訓練内容として

11月以降は、生活リハビリもリハビリ実施人数に含めているため実人数・延べ人数共に増加している。生活リハビリに含まれる主な運動として、体位変換や移乗動作、施設内移動時の歩行介助等がある。

利用者の状態に合わせてベッドサイドやリハビリ室で徒手運動療法、歩行訓練、ADL訓練等を実施した。本人の意向や体調に合わせた運動内容で、残像機能を維持・向上できるようリハビリを行った。褥瘡リスクの高い利用者に対してはポジショニングシートの作成・共有を行った。

(8) グループケア実施状況

利用者のグループ編成（すみれグループ：28名・たんぽぽグループ：24名・ひまわりグループ：28名）は例年と変わりなく慣れた職員と穏やかに施設生活を送って頂き、利用者と多くの関わりを持つことで家庭的な雰囲気作りに努めた。一部、コロナの感染対策として見合わせた行事があった。

共 通 行 事 実 施 状 況

実施日	行事内容	場 所	グループ別 参加利用者数			
			すみれ	たんぽぽ	ひまわり	計
7/3	七夕笹飾り	デイフロア	9	21	20	50
10/11	観月会	中庭	8	18	15	41
11/6	運動会	中庭	9	20	19	48
12/13	アザレアコーラス	デイフロア	8	23	17	48
12/17	忘年会+どれみ広場	デイフロア	12	23	17	52
12/25	クリスマス会	デイフロア	8	23	18	49
12/27	もちつき	玄関ロビー	0	22	18	40
1/1	新年拝賀式	デイフロア	11	24	19	54
1/4	初詣で	船木神社	2	2	3	7
1/13	とうど	中庭	11	23	16	50
2/8	賀寿の祝い	デイフロア	14	25	21	60
3/5	ハーモニカ演奏	ひまわりリビング	7	23	19	49
合 計			99	247	202	548

クラブ活動 実施状況

(お誕生会)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
全体	4	6	3	10	3	10	7	4	7	8	3	11	76
合計	4	6	3	10	3	10	7	4	7	8	3	11	76

(ホーム茶屋)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
すみれ	43	41	39	41	43	41	65	46	47	43	46	51	546
たんぽぽ	44	40	41	43	42	46	45	44	43	44	45	43	520
ひまわり	42	42	43	45	41	43	48	44	40	43	44	48	523
合計	129	123	123	129	126	130	158	134	130	130	135	142	1589

(カラオケ)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
すみれ	0	1	0	0	0	0	1	0	0	5	12	1	20
たんぽぽ	15	24	19	19	5	8	20	17	0	12	10	12	161
ひまわり	17	36	32	205	6	13	26	24	0	21	19	26	425
合計	32	61	51	224	11	21	47	41	0	38	41	39	606

《すみれグループ》

(入浴実施状況： 2回／週)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
仰臥位入浴	164	199	151	175	106	154	205	212	138	213	193	201	2,111
座位入浴	29	35	32	36	12	17	26	27	19	25	28	27	313
自立補助入浴	2	10	14	14	5	8	7	17	11	16	18	8	130
自立入浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シャワー浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	195	244	197	225	123	179	238	256	168	254	239	236	2,554

(行事・レク実施状況)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
外出 (ドライブ・外食含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
施設内行事	6	6	0	8	0	7	33	15	3	7	9	8	102
合計	6	6	0	8	0	7	33	15	3	8	9	9	104

《たんぽぽグループ》

(入浴実施状況： 2回／週)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
仰臥位入浴	40	34	43	57	18	48	70	48	35	56	51	72	572
座位入浴	39	25	34	43	11	35	45	41	18	46	58	51	446
自立補助入浴	27	42	43	41	15	30	30	36	9	42	32	22	369
自立入浴	30	60	50	48	18	34	47	40	26	34	35	46	468
シャワー浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	136	161	170	189	62	147	192	165	88	178	176	191	1,855

(行事・レク実施状況)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
外出 (ドライブ・外食含む)	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
施設内行事	0	28	26	32	0	45	68	44	67	66	69	46	491
合計	0	28	31	32	0	45	68	44	67	66	69	46	496

《ひまわりグループ》

(入浴実施状況)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
仰臥位入浴	93	107	100	109	48	94	126	120	89	133	114	124	1,257
座位入浴	33	57	51	68	18	45	51	42	21	39	38	53	516
自立補助入浴	37	47	47	54	21	40	57	47	23	46	38	56	513
自立入浴	5	9	6	7	4	0	4	1	1	0	0	7	44
シャワー浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	168	220	204	238	91	179	238	210	134	218	190	240	2,330

(行事・レク実施状況)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
外出 (ドライブ・外食含む)	0	0	7	0	0	0	0	4	2	0	0	0	13
施設内行事	0	28	31	25	0	18	52	33	50	49	50	25	361
合計	0	28	38	25	0	18	52	37	52	49	50	25	374

給食栄養状況

栄養ケアマネジメントの実施により、一人ひとりの栄養ケアプランが十分に実施されるよう、多職種協働で取り組みを行い、利用者の個別性に対応した。

栄養ケアマネジメント

月	ケアマネジメント実施数 (人)	低 リスク	中 リスク	高 リスク	合 計
4月	75	35	26	14	75
5月	77	34	26	17	77
6月	74	28	30	16	74
7月	74	29	29	16	74
8月	74	32	34	8	74
9月	75	23	33	19	75
10月	78	23	39	16	78
11月	80	29	35	16	80
12月	77	28	39	10	77
1月	76	35	35	6	76
2月	77	39	28	10	77
3月	80	42	28	10	80
合 計	917	377	382	158	
月平均	76.4	31.4	31.8	13.2	

栄養ケアマネジメントにて、一人ひとりその人に合ったプランを立て実施している。
 低栄養のリスク分けについては、体重・BMI・体重減少率・血清アルブミン値・食事摂取量・栄養補給法・褥瘡の有無などを用いて行っている。
 高リスク者の多くは、食事摂取量が7割を切っており低体重の傾向にある。中リスク者については、食事摂取量は良いが標準体重に満たしていない方が多い傾向にあった。
 前年度と比較すると、高リスク者は3.8人減り、低リスク者が5.4人増えている結果となった。

	主食形態					副食形態				流動食
食事形態	御飯	お握り	全粥	ゼリー粥	ミキサー粥	普通食	ソフト食	ゼリー食	ミキサー食	流動食
ご利用者数 (人)	29	5	22	15	4	36	23	12	4	5

食事形態においては、普通食を食べられている方が全体の45%、加工が必要な方は約49%となっている。鼻腔・胃瘻栄養は5名。前年度と比較すると、普通食の割合が増えている。
 利用者の体調や嚥下機能状態は、日々刻々と変化し一人ひとりの体調に合わせた食事の提供が必要不可欠である。食事摂取量が低下した場合は、食事量を半量に落とし不足分を栄養補助食品(飲料)を使い、栄養を補充している。
 今後も、利用者一人ひとりその人に合った食事提供を行うことで、穏やかな施設生活が送れるよう支援していく。

行事食の献立状況

月 日	献 立
4月19日	・春の彩りちらし寿司 ・白身魚フライタルタル添え ・バター醤油のポテトサラダ ・筍とお麴のすまし汁 ・杏仁豆腐～マンゴーソース掛け～
5月10日	・しらすと小松菜の混ぜご飯 ・豆腐ハンバーグ ・茄子の炒め煮 ・キャベツとツナの和え物 ・そうめんのお吸い物 ・フルーツヨーグルト
6月19日	・豆ごはん ・鶏肉の梅肉焼き ・えびといんげんの塩卵とじ ・たっぷり野菜のカレースープ ・マスクメロン ・紫陽花ゼリー
7月17日	・とうもろこしご飯 ・和風から揚げ ・なすのステーキ ・ちくわときゅうりの梅肉和え ・卵とトマトのスープ ・夏のフルーツポンチ
8月30日	・夏のちらし寿司 ・茄子のはさみ揚げ ・キャベツと蒸し鶏のごま和え ・梨(幸水)
9月28日	・さつまいも赤飯 ・鶏ももとしめじのホイル焼き ・小松菜とソーセージの卵とじ ・青じそドレッシング和え ・大根のしょうが汁 ・秋のフルーツ盛合わせ(梨、ぶどう)
10月11日	・いもたき ・わかめおにぎり ・千草焼き ・ほうれん草のドレッシング和え ・さっぱり杏仁豆腐
11月15日	・和風ガバオライス ・なすとカニカマのさっぱり和え ・さつまいもの甘煮 ・トマトと白菜の旨味スープ ・焼きりんご
12月11日	・鯛めし ・から揚げポテトセット ・キャベツとりんごのコールスローサラダ ・冬野菜の和風ミネストローネ ・いちごケーキ/いちごムース
1月15日	・鮭ときゅうりの混ぜ寿司 ・小エビと野菜のかき揚げ ・筍と蒲鉾のお吸い物 ・和風明太ポテト ・ジョア/ヨーグルト～いちごソース掛け～
2月8日	・赤飯 ・ぶりの照り焼き ・鶏のから揚げ ・玉子焼き ・南瓜の煮物 ・ほうれん草と人参のごま和え ・梅うぐいす/ミニカップデザート(プリン)
3月7日	・枝豆ご飯 ・豆腐ハンバーグ(デミグラスソース) ・マカロニサラダ ・白菜とえのきのスープ ・チョコプリン(カルシウム入り)

季節を感じたり温かい気持ちになってもらい、「また食いたい」と思っただけのような献立を意識し作成した。調理職員一丸となって心を込めて調理し提供できた。

短期入所生活介護の利用状況

	人数	延日数	1日平均
4月	21	164	5.5
5月	19	186	6.0
6月	18	169	5.6
7月	16	170	5.5
8月	15	166	5.4
9月	16	142	4.7
10月	18	174	5.6
11月	20	157	5.2
12月	17	146	4.7
1月	20	190	6.1
2月	20	162	5.8
3月	16	126	4.1
合 計	216	1,952	
月平均	18.0	162.7	5.35
前年度実績	196	1,534	
前年度比	110%	127%	

社会福祉法人減免

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	31

社会福祉法人減免として生活困難な利用者に対し、利用料の減免措置を行っている。

減免対象者の範囲

1. 高齢福祉年金受給者
2. 市町が生活困難と認めた場合
3. 対象年収が42万円以下の方

家族会の状況

実 施 日	参加家族数	参加人数
令和6年6月15日	26	36

- ①介護報酬改定について
- ②令和5年度事業報告と令和6年度事業計画について
- ③グループケアへの取り組み状況報告

ボランティア活動実施状況

ボランティア活動実施状況							
月日	ボランティア名	人員	内 容	月日	ボランティア名	人員	内 容
				</			

10. 指定居宅介護支援

総合目標及び課題

一人ひとりの尊厳の保持と自立支援を行い、住み慣れた地域での生活をできるかぎり継続支援しました。幅広い視点で生活全般をとらえ、生活の将来予測に基づいて支援調整するために、関係職種の視点や知見を活かし、連携して取り組む態勢を整えた。

目標及び課題	成果等
(1) 適切なケアマネジメント手法を理解し、質の高いケアマネジメントを推進。	① 利用者や家族に先入観を持つことなく、網羅的に情報収集し、支援を組み立てた。 ② 生活課題の把握や、生活の将来予測、個別化をして、その人らしい生活の継続を目指した。 ③ 利用者や家族について把握した状況を活用して、支援内容の見直しを行った。
(2) 利用しやすい事業所の運営	① 必要な時に安心して相談できる事業所になるよう、職員の人材育成に努めた。 ② 職員のコミュニケーション能力、ケアマネジメント能力の向上を目指した。 ③ 地域が必要としているサービスを見極め、適切な情報の収集と発信を行った。
(3) 持続可能なサービス提供	① 多職種協働によりネットワークを広げ、サービスを一体的に提供できるよう支援した。 ② 他職種連携において、必要な情報の共有や有意義な意見交換を行い、双方が共通する知識や支店を持てるように努めた。

11. 在宅介護支援センター

- ・新居浜市地域包括支援センターが行う総合相談支援業務及び権利擁護業務等に協力した。
- ・在宅介護支援センターは次に定める事業を行った。

目標及び課題	成果等
(1) 相談体制の整備	① 地域の支部社協等の定期会議に参加して、相談内容による関係機関の連携体制について、調整を実施した。
(2) 地域課題の取り組み	① 船木・泉川校区の各支部社協等の定例会議に参加して、地域関係者との意見交換や地域課題について

(3) 基本業務	検討を含め、引き続き意見集約を行った。 延相談件数 103 件 (内訳：電話 40 件・訪問 48 件 来所 6 件・その他 5 件) 「認知症サポーター養成講座補助」 講師 4 回、演者 6 回 泉川見守り・SOS ネットワーク協議会： 12 回 一般高齢者介護予防教室開催状況（上部東教室） 期間：令和 6 年 9 月～ 12 月/全 13 回開催 場所：船木公民館を使用。 参加者数：19 名（定員 25 名） 健康長寿拠点づくり事業 担当 16 拠点
----------	---

12. 委員会活動

目標及び課題	成果等
【環境委員会】 利用者・職員が快適に生活出来る空間を提供できるよう、施設内外の環境美化に努めた。	① 月 1 回の奉仕デイと清掃週間による除草、清掃活動を実施し環境美化を行った。 ② 花壇については、各グループがそれぞれの場所を担当し、その個性を活かしながら定期的に除草や植え替え作業を行った。 ③ 害虫防除に努め、生活空間の環境の保全に努めた。
【生産性向上・サービス向上委員会】 施設生活や利用者個人に関わる課題について多職種で協議し、サービスの質向上を図った。	① サービス内容、職種別業務内容の議題など協議し、利用者に関わる支援体制の改善を継続的に図った。 ② 加算事項に伴う検討事項の協議と会議記録を整えた。ICT 機器導入に伴う業務の効率化の検討及び業務改善について検討した。
【感染委員会】 感染予防に努めた。	① 職員の手洗いチェック・体調チェックを行った。職員全体の学習会を行い感染対策に対しての注意喚起を行った。新型コロナウイルス感染症クラスター発生するも重症化等することなく終息することができた。 ② 感染予防対策について施設内勉強会を行い、高齢者に多い感染症の観察ポイント・症状のポイント・標準感染予防策の大切さについて学んだ。 ③ 新型コロナウイルス感染症クラスター発生した際には、初期対応及び臨時感染対策委員会を立ち上げ、拡大することなく終息することができた。今後も感染予防対策を意識し継続的な実施に努める。

【給食委員会】 食事を通して、利用者の健康保持活動に努めた。	① 毎月、食事摂取量・体重・嗜好の変化に伴い、個々の食事形態の検討を行った。また、高リスク者に対しては、個々の問題点を抽出して対応に努めた。 ② その都度必要であれば、食事の対応の仕方について注意喚起し、食中毒や事故予防に努めた。
【広報委員会】 広報紙を発刊し、施設活動の啓発と理解に努めた。	① 契約者・地域・関係機関等を対象に、利用者の生活の様子を主な内容として年5回の広報紙を発刊し、施設の活動と介護保険に関する情報の理解促進に努めた。
【研修委員会】 施設内研修を計画し実施した。	① 介護サービス技術の基礎力と応用力の向上を目指して年12回の内部学習会を実施し、延べ394名の参加があり（平均参加人数32.8名、81.5%）継続して取り組んだ。また、参加出来ていない職員には、研修動画を視聴後、レポートを提出することで、内容の共有とフィードバックを行った。
【事故防止委員会】 介護事故の予防・再発防止に努めた。	① ヒヤリハット、事故の要因及び原因の分析と対応策への評価を徹底することで事故予防、再発防止と職員の意識向上に努めた。 ② 事故に関する研修を開催して、事故の分類、分析と再発防止の方法など知識向上に努めた。
【接遇委員会】 利用者・家族だけでなく職員にとっても心地よく快適な空間づくりに努めた。	① あいさつ、身だしなみ、言葉遣い、表情、態度など接遇マナーを身に着け、敬意と思いやりを持って対応することに努めた。 ② 利用者主体の価値観のもと、時間的にも心理的にもゆとりのあるケアに努めた。 ③ 虐待防止委員会と連携を取り、より良い接遇を目指した。
【褥瘡委員会】 褥瘡が発生しないよう重点的に取り組んだ。	① 褥瘡予防の為、褥瘡ケア計画書を早めに立案、見直ししていたが、利用者の全身状態の悪化による、褥瘡の改善、完治が難しかった。また、原因の一つとして低アルブミン等によるケースもあり、整形外科の受診を行い改善に努めた。 ・褥瘡発生者 延べ4名（持ち込み1名） ・治癒 1名 退所 2名 ・治療継続 1名 ② 勉強会を行い、マット変更及びクッションの使用並びにポジショニングを各グループで検討し、褥瘡の悪化防止に努めた。

【排泄委員会】 専門職と連携し、排泄動作の自立と、安全で気持ちのよい排泄を目指した。	① 利用者の排泄状態に関するスクリーニングを実施した。介護を要する原因等について分析し、専門職の意見をもとに排泄にかかる要介護状態の軽減と予防に努め、利用者の状態に適した排泄支援を行った。
【看取り委員会】 利用者やご家族の思いに寄り添い、命に向き合い、最期までその人らしい暮らしを支えられるよう努めた。	① 利用者が最期までその人らしく過ごせるように、医師、家族、多職種での看取り介護カンファレンスを行い、病状説明し、情報を共有したうえで、利用者本人の意思ならびに家族の意向を尊重しながら看取り介護を行った。 ・看取り介護：延べ9名 ・学習会：9月20日
【喀痰吸引委員会】 喀痰吸引を安全に実施できるように努めた。	① 要吸引者のピックアップを行い、家族に吸引の同意をもらい、一覧表を作成して要吸引者の把握を行った。 ② 各自に吸引の研修を実施して、事故防止に取り組み安全に実施することが出来た。
【身体拘束防止委員会】 身体拘束の弊害を理解し、利用者の尊厳と安全が確保出来るよう努めた。	① 職員研修を実施し、身体拘束の弊害について理解することができ、どのようにすれば身体拘束をしなくてよいのか。代替方法を多職種で検討し、拘束防止に取り組み身体拘束は行わなかった。
【虐待防止委員会】 虐待が発生しないよう、不適切事例について研修会の機会を確保した。	① 職員入職時に、研修を行い虐待に対する知識を深めた上で、業務に取り組んだ。 ② 年に2回虐待に関する研修を行い、施設全体で虐待に対する意識向上に努めた。また、グループで毎月不適切ケア等について検討する場を設け、虐待に繋がらないよう振り返る機会を設けた。 ③ 毎月委員会にて、虐待に繋がる職場環境になっていないか検討した。

特 別 養 護 老 人 ホ ー ム
短 期 入 所 生 活 介 護 事 業 所
デ イ サ ー ビ ス セ ン タ ー
グ ル ー プ ホ ー ム

ふたばの森

特別養護老人ホームふたばの森

1. 相談及び援助

総合目標及び課題

地域に生じている課題に向きあい、法人の理念である「愛ある安心、感じる満足」を実感できる福祉サービスの拠点づくりを行った。また、全部署、関連委員会において感染症・災害に備える計画の策定及び見直し等について取り組んだ。

重点目標及び課題	成果等
(1) 稼働率の維持と入所事前準備の更なる強化	① 特養の年間平均稼働率は95.3%と、目標を達成することが出来なかった。退所から新規受入れの期間が平均4週間程度かかっており、今後の課題となった。
(2) 地域福祉サービスの創造と展開	① 移動販売の場所を提供することにより、入所者及び地域の方が買い物を通して地域交流をすることが出来た。
(3) 介護ロボット、ICT等の活用	① スカイリフト使用による介護の負担軽減及びケア記録の活用による業務の効率化、情報の共有化を図った。
(4) 感染症対策と面会、外出行事の規制緩和	① 面会は、制約を設けず実施した。また、家族との外出についても再開した。 ② 外出支援や、自宅への一時帰宅等の外出支援を行った。

2. 介護

総合目標及び課題

サービスの質を担保するために、人材確保と、自律した職員の育成が課題となっており中長期的な人材確保、育成策を具体的に協議し実施しました。また、働きやすい環境づくりや、現員での勤務体制強化に取り組みました。

重点目標及び課題	成果等
(1) 個別ケアの更なる強化	① 日中の個々の生活リズムやニーズを大切にし、サービスメニューを選択して頂き出来る限りそれに応え

(2) 認知症ケアの教育、人材育成、勤務体制強化 (3) ユニットケアの環境づくりの見直し (4) 自然災害や感染症の対応 (5) ICTの導入	られるよう対応を行った。また、入所以前の生活を継続できるよう支援した。 ① 外部研修及びリモート研修に参加した。 ② ユニット間で連携・協力し利用者が安全に過ごせる体制を整えた。 ① リビングに季節の花を飾ったり、利用者が落ち着いて生活が出来る環境づくりを行った。掲示物は車椅子の目線に合わせて貼る位置の工夫を行った。 ② ユニット毎に季節に応じたおやつ作り及び公園等へ外出を行い、季節を感じて頂くなど気分転換を図り、笑顔を引き出すことが出来た。 ① 排泄ケア用品の備蓄を継続し行った。 ② 面会については、新型コロナの感染症の状況に応じて、面会支援を行った。 ① 事務所にタブレットを設置することにより、出退勤路に申し送りや注意事項など確認出来るようになった。
--	--

3. 栄養

総合目標及び課題

満足される食事提供と個人毎の栄養管理の充実に取り組みました。また、食に関する事故予防に努めた。

重点目標及び課題	成果等
(1) 栄養ケアマネジメントの実践 (2) 食事の楽しみ (3) 衛生管理、アレルギー対策への強化	① 利用者毎の栄養ケア計画により、栄養改善に取り組み健康増進を図った。また、多職種で協議し経口摂取維持に取り組んだ。 ① 食事が楽しめるよう、旬の食材を使い季節を感じられるよう行事食を提供した。 ① HACCPに準じて、食中毒予防と調理室内・調理器具の衛生管理及び、体調管理と手指衛生の徹底に努めた。 ② アレルギーの発生を防ぐために、ダブルチェックを行った。

4. 医務

総合目標及び課題

利用者との日頃のコミュニケーションを大切にしながら、安全にかつ穏やかに過ごしていただけるように、関係職種と連携をはかりながら生活支援を行った。また、感染症予防・事故防止等の取り組みを継続しながら、様々な研修に参加し、最新の知識や技術を習得によりケアの向上に努めた。

重点目標及び課題	成果等
(1) 穏やかな生活への取り組み	① 日々の体調管理を行い、異常発見時は処置、採血や点滴等施設での対応若しくは、受診対応を行い利用者が苦痛なく、また、利用者・家族が少しでも不安の軽減になるよう努めた。 ② 利用者の体調不良時や看取り時の説明など、家族が少しでも不安を軽減出来るよう心がけた。家族の要望に応じ、可能な範囲の対応を行った。
(2) 感染予防、事故防止に向けた取り組み	① 感染症（感染症概要、コロナウイルス、標準予防策）に関する内部研修を行い、知識の共有努めた。1月にコロナ感染症及び3月にノロウイルス感染症が発生し、それぞれに感染対応を実施した。 ② 感染症発生毎に、感染委員会・運営会で反省・改善点を協議しユニットに周知徹底を行った。

5. 機能訓練指導員

総合目標及び課題

利用者の健康寿命を延ばす事を目標に「既存機能の維持」と「新たな自立動作の構築」に努めた。

重点目標及び課題	成果等
(1) ADL向上への取り組み	① 利用者とのコミュニケーションを図り病歴、身体状況、ADLを把握して、リハビリ計画を立案実施した。 ② 個々の利用者に応じて、歩行訓練・立ち上がり訓練・移乗動作などの訓練を行い、安全に日常生活が送れるようADLの維持向上に努めた。

(2) 関節拘縮と筋力維持への取り組み	① 介護職員と利用者の情報共有を行い、関節可動域訓練や筋力維持訓練を行い、訓練計画の見直しを行った。
(3) 事故防止への取り組み	① 各ユニット会で多職種による情報交換を行い、事故防止に向けた、生活環境の整備や訓練内容の見直しを行った。 ② 不明部品発見報告書を作成し写真を撮りデーターで保存し管理することにより施設用具の部品が外れることによる事故の防止に努めた。

6. 短期入所生活介護事業所（含 介護予防短期入所介護）

総合目標及び課題

利用者が在宅において日常生活を継続することが出来るよう、在宅介護では不足するケアを職員が行い、利用者の心身のケアとご家族のレスパイト（休息）として身体的及び精神的負担の軽減が図られるよう努めた。

重点目標及び課題	成果等
(1) 在宅生活を継続する為のケアの推進	① 利用者個々に合わせたケアをすることにより在宅生活が維持出来るよう支援した。また、家族のサポートやレスパイトとしての役割を果たすことにより、住み慣れた環境で心穏やかな生活が続けられるよう支援した。
(2) 認知症ケアへの対応	① 利用者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう、また、認知症を正しく理解し個々に合わせたケアができるよう、介護職員の専門性や意識を高めた。
(3) 居宅事業所との連携	① 地域や家族との結びつきを重視し、居宅事業所など他の介護保険施設とも連携を取り、稼働率を96%を目標としていたが、事業所内でのコロナ、ノロウイルス発生の影響などにより年間平均稼働率は82.5%にとどまった。
(4) 意識改革と資質の向上	① 職員一人ひとりの専門性を高めるために研修にも参加し技能向上に努め、また業務の見直しも行い業務の効率化を図った。

7. 通所介護事業所（含 介護予防通所介護）

総合目標及び課題

利用者の意思、人格を尊重し、利用者の立場になって、サービスの提供に努めた。
感染対策を今まで以上に強化し、利用者が安全で、安心して利用できるよう努めた。
家族や地域の結びつきを大切にして、運営を行った。

重点目標及び課題	成果等
(1) 自立に向けた支援	① 利用者個々の能力を最大限に引き出し、日常生活における自立を支援するため、日常生活動作の一部をご自身で行えるよう声掛けや介助を行った。
(2) ICTの取入れ	① ケア記録システムを取り入れ記録などの業務の簡素化を図ったが、全職員が操作等を十分に習得することが出来ず、業務簡素化には至らなかった。
(3) ご家族との関係の確立強化	① 様々な家族の要望に対し、事業所として柔軟に対応することができた。
(4) アウトリーチへの取り組み	① 感染症によって参加できなかった地域行事に参加することができた。新居浜市の学生ボランティアに傾聴や清掃などで施設活動に参加してもらい、交流が促進できた。

8. 健康長寿地域拠点作り

PPK（ぴんぴんキラリ）体操は、セラバンドやお手玉を使って両手・両足・頭を働かすことで、上半身、下半身の筋力アップと認知症予防が期待できる体操です。

自治会館等、送迎に頼らない身近な場所に、地域の方々が主体となって通いの場をつくり、週1回、PPK体操を主とした介護予防や健康づくり、仲間づくりを行っています。
住み慣れた地域でいつまでもいきいきと生活できるように支援しました。

●健康長寿拠点担当一覧

月		火		水	
みどりヶ丘	10:00	城主	9:00	長野	9:30
下泉久門	13:00	吉岡	10:00	七宝台	10:00
喜光地西町	14:00	船木上原	10:00	西喜光地上組	10:00
		池田	10:00	三軒屋	10:00
		瀬戸寿	10:00	篠場	13:00
		北内中	13:30	東田	13:30
		岸の上連合	14:00		

9. 一般高齢者介護予防教室（元気もりもり教室）

運動や、栄養バランスのよい食事、お口の健康、認知症予防などについて学び、介護が必要となる原因に気づき、予防や改善が可能であることを知り、対処する方法を身につけることで、いつまでも自立した生活が送れることを目的とした教室です。

事前説明会 9月16日 期間 9月27日から12月20日

毎週水曜日 13:30 ～ 15:30 船木公民館にて実施。

19名の方が参加されました。

10. 委員会活動計画

重点目標及び課題	成果等
【拘束委員会】 「身体抑制廃止・ふたばの森宣言」に基づき継続して取り組んだ。 【研修委員会】 事業計画に準じた研修を行いサービスの向上に努めた。 【安全対策委員会】 転倒・転落による「重傷事故ゼロ」に取り組んだ。	① 身体拘束等の適正化のため定期的に研修を実施した。定期的な検討会を3ヶ月に一度行い、身体拘束ゼロの達成が出来た。 ① 法令や運営基準に基づく必須研修を中心に、全職員対象の研修を計画したが、感染症対策等の為、開催できない研修もあった。 ② 必要に応じ職員の要望を取り入れた内部研修やその時の情勢に合った内部研修を行った。 ① 新居浜市役所への事故報告・・・12件 東予地方局への事故報告・・・0件（終了報告込） （内訳） 転落による裂傷・・・1件 転倒による骨折・・・2件 誤薬・・・4件 転倒・・・4件 落薬・・・1件 原因不明の骨折・・・1件 介護中の打撲、外傷・・・1件 転落・・・2件 転倒、転落による裂傷や骨折もあり、重大事故を未然に防ぐことが出来なかった。

【在宅委員会】

グループ内の居宅、デイ、ショートで情報共有を行い稼働率向上に取り組んだ。

【給食委員会】

食の楽しみをお届けし、事故防止にも努めた。

【褥瘡委員会】

多職種で連携して予防と早期対応に努めた。

【口腔ケア委員会】

専門家の指示の下、適正なケアに取り組んだ。

① ショートステイ、デイサービスの問題点や稼働状況などを、担当相談員と居宅介護支援事業所職員と共に、利用者や家族、他の居宅介護支援事業所に選ばれる事業所として、必要なことを話し合う場を設け、情報を共有し円滑な運営が出来た。

- ① 食事を楽しんでもらえるよう、季節感のある食材や懐かしい料理を行事食で取り入れた。
- ② 食中毒を防ぐため二時間前喫食、手指食毒、調理者の体調管理を徹底した。

① 褥創者は5名だった。

1名は看取り施行中の利用者で、食事摂取困難から栄養状態が悪くなり表皮剥離部が治らず褥瘡化した。他3名は臀部の褥瘡であり、オムツの湿潤、長時間の座位が原因と思われるため、離床・臥床時間の検討を行い、毎日の処置を行うことですぐに改善した。もう1名は臥床時の同一体制のため表皮剥離ができ褥瘡化しており、悪化と改善を繰り返しており、現在も治中である。4月と10月に採血を実施し、栄養状態、褥瘡高リスク者の評価を行った。また、皮膚の乾燥や、皮膚の脆弱性を把握し、スキンケア等実施してもらい皮膚トラブルの予防に努めた。

① 月2回以上の歯科医師と歯科衛生士による専門的口腔ケアの実施を通じて、治療が必要な利用者に関して、本人や家族の意向を確認し対処が行えた。また、介護職員から発信される利用者の口腔内の問題点は、歯科医師・衛生士へ連絡し、治療や問題点の解決に繋げることが出来た。また、往診日以外も、必要に応じて歯科医師に連絡し往診を依頼した。

【看取り委員会】

利用者や家族の想いに寄り添いながら最期の時まで穏やかに過ごせるように努めた。

【感染対策委員会】

年中を通しての感染症対策の予防対応に努めた。

【入浴委員会】

利用者の全身の状態の情報を共有し細かなケアが出来るよう努めた。

【排泄委員会】

利用者の皮膚トラブルの減少、コスト削減を考えた活動を行った。

【接遇委員会】

委員会と会議録回覧を通じて各職員に伝達した。

① 4名の方の看取り介護を実施した。コロナも5類となり、面会は自由であったが、飲食制限は解除になっていない現状であったが、感染対策を行いながら、看取り者に関しては、飲食や面会時間自由とし、宿泊希望もベッドを購入して対応した。最期の時まで家族で穏やかに過ごせる環境を提供できた。

② 食事摂取が難しい状態であっても、本人に食べたい意思があり、家族が同意した場合は、嗜好品を無理しない程度に形状を工夫して、看護職員・家族立ち合いの下、提供を行った。

③ 家族との関係が希薄になりつつあったため、今後はグリーフケアの充実が課題となった。

① 1月度に新型コロナ感染症が発生し、終息に25日を費やした。終息後、評価を実施し、標準予防策の見直し及び感染発生時の対応の見直しを行った。

② 3月度にノロウイルス感染症が発生し、未経験の職員も多く初期対応が遅れた。終息後、評価を実施し、マニュアルに反映することが課題となった。

① 入浴の度に手足の爪が伸びていないか確認を行った。

② 利用者様の入浴日を見直し利用者様がより気持ちよく入浴が出来るように努めた。

① 排泄介助時に皮膚観察を行い、褥瘡や皮膚の爛れのある方は医務との連携を取り、早期対応処置を行った。

② パットの種類、交換時間を見直すことでコスト削減、利用者の夜間の安眠を確保できた。

③ パット交換対応者の定期的な陰部洗浄を実施し、褥瘡などの予防に努めた。

① 職員の身だしなみについては、ふたばの森の職員として協議を実施した。

② 柔軟剤、香水等の「香害」について資料配布にて、

【環境委員会】 立地条件により、施設内、施設外も視野に入れ清掃活動を行った。 【防災防犯委員会】 水害、火災を中心に普段から訓練を行い対応力が向上するよう取り組んだ。 【広報委員会】 紙面やHPを使い情報発信に努めた。 【認知委員会】 専門家によるアドバイスを受けながらその人らしい生活が維持出来るように努めた。	課題検討を実施した。 ③ 委員会としての年間目標、身だしなみ・接遇チェック表導入は、施設・委員会で協議し次年度以降の課題となった。 ④ 各部署・各ユニット等でコロナ蔓延等があり思っていた以上に会議が開催できなかった。その際、会議録等で各問題の周知徹底が出来なかった。 ① 施設敷地内外の掃除を各部署・各ユニットにて週ごとに出勤時間内にて実施したが、十分に行えなかった。今後は、職員会などにて周知広報が課題となった。 ① 定期的な防災訓練を行うと共に、非常食の管理及び点検を行い必要な物品は更新した。 ① ブログ活用し情報発信する予定であったが、有効活用することができなかった。 ② コロナ禍でイベント事等の制限がある中で、2ヶ月に1回の広報誌を発行し、利用者の生き生きとした姿を紹介することで、家族や地域の方々に情報発信をすることが出来た。 ③ 地域の方へ、施設案内のチラシを作成し回覧板にて施設紹介をした。 ① 認知症の方の現状と対応方法を毎月、他職種で検討し、言葉に出せない変化にも早期に気づき、各職員が、その時の状況に合わせた対応ができるように話し合う事が出来た。 ② 改善が難しい時や、B P S Dのある認知症の方への対応については、その都度、相談員や医務・心療内科医と連携し、診察・服薬調整等を行い、個々の利用者の状態に合わせた対応を行った。
--	---

11. 職員研修参加状況（ふたばの森）

月	日	内容	場所	出席者
4	25	東予老施協第1回総会	今治	施設長
5	30	県老施協第1回総会・研修会	松山	施設長
5	31	県特別研修：介護保険制度改正と報酬改定の状況から考える介護事業経営	松山	相談員1名
6	18	「介護の快護化」に向けた拘縮ケアと予防	Zoom	看護職員1名・機能訓練指導員1名
6	21	県老施協新任職員研修会	松山	管理栄養士・介護職員1名
6	25	市社協スキルアップ研修「メンタルヘルス」	市内	管理栄養士
7	9	愛媛県老人福祉施設大会	松山	生活相談員1名・看護職員1名
7	12	生産性向上から「人づくり」セミナー	Zoom	生活相談員1名
7	25	介護ロボット・ICT導入・活用セミナー	Zoom	生活相談員1名
8	2	県接遇研修	松山	介護職員1名
8	9	県・東予老施協共催研修「感染対策机上訓練」	市内	生活相談員1名・看護職員1名・介護職員1名
8	22~23	四国老人福祉施設大会	徳島	機能訓練指導員1名・介護職員1名
9	11~13	熊本県福祉避難所視察研修	熊本	施設長
9	27	愛媛県介護施設従事者による高齢者虐待防止研修会	伊予市	生活相談員1名
10	3	特定給食施設等関係者研修会	西条	管理栄養士
10	23	東予地区老施協介護支援専門員研修会	今治	生活相談員1名
11	14	「介護の快護化」に向けたスキントラブル予防	Zoom	生活相談員1名
11	16	「介護の快護化」に向けたスキントラブル予防	Zoom	看護職員1名
11	16	医療・介護福祉セミナー	市内	看護職員1名
11	20~22	全国老人福祉施設大会・研究会議	滋賀	生活相談員1名
11	21	介護現場のカスタマーハラスメントセミナー	Zoom	生活相談員2名・看護職員1名
11	27	東予老施協介護職員研修会	四国中央市	介護職員1名
2	26	東予老施協第2回総会	市内	施設長
2	27	県「ホリフティング」普及啓発セミナー	Zoom	機能訓練指導員1名
2	28	生産性向上セミナー	Zoom	生活相談員1名
3	10	危険体幹教育無料セミナー	市内	機能訓練指導員
3	11	市社協スキルアップ研修「避難所運営ゲームから学ぶ」	市内	機能訓練指導員

職員研修参加状況（デイサービスセンターふたばの森）

月	日	内容	場所	出席者
4	5	こだわりの入浴セミナー	松山	介護職員1名
6	25	市社協スキルアップ研修「メンタルヘルス」	市内	介護職員1名
7	9	愛媛県老人福祉施設大会	松山	生活相談員1名
7	17	県デイサービスセンター職員研修	松山	介護職員1名
8	2	県接遇研修	松山	介護職員1名
8	2	東予老施協新任職員研修会	四国中央市	看護職員1名
9	27	愛媛県介護施設従事者による高齢者虐待防止研修会	伊予市	生活相談員1名

12. 事業実施状況

月	保健衛生	施設管理	地域交流スペース利用状況
4	/20 利用者春期健康診断 /24 厨房職員検便 /5 職員健康診断	/6 EV定期点検 /7 受水槽清掃	/19 ワークラフデザイン研修 /24 内部学習会「口腔ケア」;松田歯科
5	/25 厨房職員検便	/6 EV定期点検	/22 内部学習会「事故防止:原因不明の傷・アザ・骨折への対応策」 /17 ワークラフデザイン研修 /27 運営推進会議
6	/23 厨房職員検便	/1 水防訓練 /6 EV定期点検 /12 荷物用EV点検	/21 ワークラフデザイン研修 /27 内部学習会「感染・食中毒予防:住友別子病院」/15 船木中学生3名職場体験(Uー15) /27 内部学習会「感染・食中毒予防:住友別子病院」
7	/24 厨房職員検便	/6 EV定期点検	/24 内部学習会「身体拘束:身体拘束ゼロの真の意」 /29 運営推進会議 /19 ワークラフデザイン研修 /22 夏のボランティア体験 /23 夏のボランティア体験 /26 夏のボランティア体験 /31 夏のボランティア体験
8	/24 厨房職員検便	/6 EV定期点検 /26 非常用発電機定期点検	/16 ワークラフデザイン研修 /9 内部学習会「認知症:専門職としての心構えと本人理解」
9	/21 厨房職員検便	/6 EV定期点検 /18 荷物用EV点検	/20 ワークラフデザイン研修 /18 内部学習会「BCP訓練」 /30 運営推進会議
10	/11 職員健康診断 /13 利用者秋季健康診断 /17~ インフルエンザ予防接種 /26 厨房職員検便	/6 EV定期点検 /22 消防設備点検	/26 内部学習会「褥瘡予防」と「排泄管理」について; /28 運営推進会議 /25 ワークラフデザイン研修
11	/20 厨房職員検便	/6 EV定期点検 /3 電気設備年次点検	/15 ワークラフデザイン研修 /25 運営推進会議 /21 内部学習会「感染:個人防護用具と環境クロス:住友別子病院」
12	/20 入居者レントゲン撮影 /18 厨房職員検便	/9 EV定期点検 /11 荷物用EV点検	/20 ワークラフデザイン研修 /23 内部学習会「法人内実践発表」
1	/24 厨房職員検便	/6 EV定期点検 / 避難訓練	/23 内部学習会「カスタマーハラスメントについて」 /27 運営推進会議 /17 ワークラフデザイン研修
2	/20 厨房職員検便	/7 EV定期点検 /27 非常用発電機定期点検 /26 消防設備点検	/21 ワークラフデザイン研修
3	/18 厨房職員検便	/7 EV定期点検 /5 荷物用EV点検 / 総合避難訓練	/21 ワークラフデザイン研修 /24 運営推進会議 /22 内部学習会「看取りについて」

13.特養利用者の概要

(1)利用者の状況

令和7年3月31日現在

在所期間の状況

期 間	男	女	計	比率(%)
5年以上～10年未満	1	4	5	17%
3年以上～5年未満	1	1	2	7%
1年以上～3年未満	3	8	11	38%
1年未満	5	3	8	28%
合 計	10	16	26	90%

年齢構成

区分	65歳未満	65～74	75～79	80～84	85～89	90～100	101～	平均
男	0	0	1	2	4	3	0	82.7
女	0	1	0	3	2	10	0	88.6
合計	0	1	1	5	6	13	0	87.4

①平均年齢は約87.4歳となっている。

②最高齢者は、男性93歳、女性96歳で、最も若い利用者は、男性77歳、女性69歳である。

要介護度の状況

〔要介護度〕

介護度	1	2	3	4	5	合計	平均
男 性	0	0	2	5	3	10	4.10
女 性	0	0	3	6	7	16	4.25
合 計	0	0	5	11	10	26	4.19
前年度実績	0	0	5	14	10	29	4.17

(2)入退所状況

利用者状況

〔月別新規入所者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	1	0	5
女	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	4
計	0	0	1	1	1	1	0	2	1	0	1	1	9

退所者状況

〔月別退所者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	3
女	0	0	2	1	0	0	0	3	0	0	1	2	9
計	0	0	2	1	1	0	0	3	0	2	1	2	12

12名の方が退所となり、その内死亡退所9名、入院継続3名となっている。

(3)日常生活動作状況・生活自立度・認知症の判定

日常生活自立度（寝たきり度）

〔利用者26名〕

ランク J 生活自立	何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。		
	1	交通機関等を利用して外出する。	0
	2	隣近所なら外出する。	1
ランク A 準寝たきり	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。		
	1	介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。	3
	2	外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。	6
ランク B 寝たきり	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッドの上での生活が主体であるが座位を保つ。		
	1	車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。	4
	2	介助により車椅子に移乗する。	12
ランク C 寝たきり	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。		
	1	自力で寝返りをうつ。	0
	2	自力では寝返りもうたない。	0

認知症老人の日常生活自立度判定

〔利用者26名〕

項 目	痴 呆 の 程 度	
正 常	認知症の症状無し	0
ランク I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	2
ランク II	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。	
	a 家庭外で上記 II の状態が見られる。	1
	b 家庭内でも上記 II の状態が見られる。	5

ランクⅢ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	
	a 日中を中心として、上記Ⅲの状態が見られる。	12
	b 夜間を中心として、上記Ⅲの状態が見られる。	2
ランクⅣ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ常に介護を必要とする。	1
ランクⅤ	著しい精神症状や問題行動やあるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする	3

(5)利用者医療状況 疾 病 状 況

順	疾病名	人数	順	疾病名	人数
1	便秘症	24	29	頸椎損傷	0
2	高血圧症	10	30	硬膜下血腫	1
3	脳梗塞後遺症	3	31	前立腺癌	1
4	老人性認知症	0	32	たこつぼ心筋症	0
5	糖尿病	5	33	慢性中耳炎	1
6	骨粗鬆症	5	34	胆石症	1
7	アルツハイマー型認知症	17	35	脳血管性認知症	6
8	胸椎・腰椎圧迫骨折	5	36	狭心症	1
9	大腿骨頸部骨折	2	37	アルコール性認知症	3
10	レビー小体型認知症	3	38	アルコール性精神病	0
11	心不全	2	39	高脂血症	0
12	パーキンソン病	2	40	股関節変形症	0
13	心筋梗塞	0	41	統合失調症	0
14	変形性膝関節症	1	42	C型肝炎	1
15	尿路感染症	3	43	ペースメーカー	0
16	腰痛症	0	44	不定愁訴	0
17	胃瘻増設	0	45	僧帽弁閉鎖不全	0
18	心経因性膀胱	0	46	関節リウマチ	1
19	肺炎	3	47	高度難聴	0
20	慢性腎不全	1	48	両変形性股関節症	0
21	変形性脊椎症	0	49	前頭側頭葉変性症	0
22	呼吸不全	0	50	洞不全症候群	1
23	脳出血後遺症	2	51	腰部脊柱管狭窄症	1
24	白内障	2	52		
25	うつ病	1	53		
26	心房細動	0	54		
27	前立腺肥大	1	55		
28	症候性てんかん	3	合 計		113

高齢に伴い、1人で複数の疾病を持っている方が多く、特に生活習慣が原因となる疾患もふえてきている。高齢のため認知症が多い。

受 診 状 況

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均
実人数	14	13	7	10	9	6	9	7	10	8	6	6	105	8.8	0.29
延人数	24	13	9	13	10	9	13	7	11	12	12	6	139	11.6	0.38

ご家族の要望での医療機関受診は、積極的に行っている。但し急変による心臓・脳血管疾患骨折等は、当施設で対応困難である為、医療機関での治療をお願いしている。

入 院 状 況

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均 入院人数
実人数	0	1	0	2	4	4	1	2	0	3	2	2	21	1.8	
延日数	0	20	0	39	48	68	31	8	0	34	15	35	298	24.8	0.8

状態の悪化により、本人や家族の希望で受診・入院することがあるが、家族から終末を施設で迎えたいとの要望がある場合は、説明と同意を得てターミナルケアを実施している。

精 神 科 往 診

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均
回数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	22	1.8
実人数	26	28	30	29	29	27	27	28	28	29	28	28	337	28.1
延人数	50	55	55	57	57	54	54	55	56	29	56	28	606	50.5

精神科医の往診が月2回あり、認知症で周辺症状がある場合は、診察を受け、その診断を処遇に生かしている。

歯 科 往 診

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均
回数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	23	1.9
実人数	24	28	30	30	29	28	26	24	26	26	28	26	325	27.1
延人数	48	56	60	60	58	56	52	48	52	52	28	52	622	51.8

歯科医師の往診を受け、口腔治療をおもに行っていた。歯科医の往診も継続し治療が行えている。

(6)身体拘束ゼロ活動

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1. 車椅子拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. チューブ拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3. つなぎ服拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. ミトン型手袋による拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

今年も身体拘束ゼロについては、施設全体で取り組んでおり、身体拘束防止委員会を設置し、利用者の身体拘束を個別に検討し、福祉用具の導入や現在行われている介護を見直し、よりよいケアの実現を目指すよう努力している。委員会メンバーは・施設長・生活相談員・看護職員・栄養・グループ職員からの構成になっている。

尚、運営基準で利用者の生命又は身体を保護するため、緊急やむを得ない場合を除き、行動を制限する行為を行ってはならないと規定されており、身体拘束などを行う場合には、その対応及び時間、利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。また、その際は、利用者本人や家族に対して詳細な説明と十分な理解を得る必要がある。現在身体拘束は実施していない。

(7) ユニットケア実施状況

全体行事

	さくら	ふじ	いちよう	もみじ	合計
1月4日 初詣	2	1	0	0	3
9月1日 ふたばの森夏祭り	9	9	9	13	40
10月16日 太鼓台見物	7	9	9	16	41
12月14日 森の音楽会	6	4	9	11	30
	24	23	27	40	114

ユニット行事実施状況

実施月	さくら	ふじ	いちよう	もみじ
4月	お花見	お花見		お花見
5月			ホットケーキ作り	トランプ・かるた遊び
6月	紫陽花菖蒲見学		かき氷作り	
7月	七夕祭り	七夕祭り	七夕飾り	七夕飾り
8月				おやつ作り
9月		芋炊き	芋炊き	芋炊き
10月	太鼓見物	太鼓見物	太鼓見物	太鼓見物
11月				
12月	クリスマス会	クリスマスケーキ作り	クリスマスケーキ作り	クリスマスツリー貼り絵
1月	おみくじ釣り	おみくじ釣り・初詣		
2月				
3月		お花見・ぜんざいづくり	お花見	お花見

個別ケア 実施状況

《さくらユニット》

(入浴実施状況： 2回/週)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	31	39	36	37	33	19	37	35	28	21	9	21	346
座位入浴	16	24	27	23	22	23	25	24	27	24	15	29	279
自立補助入浴	10	14	17	14	13	9	15	15	21	21	15	19	183
清拭	2	3	1	7	15	32	1		6	17	31	11	126
シャワー浴													
合計	59	80	81	81	83	83	78	74	82	83	70	80	934

(行事・レク実施状況)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
外出、買い物、外食			4	1			3	2		2		3	15
美容、理容	8	9	9	9	9	8	8	9	8	7	0	10	94
季節行事・レクリエーション				9			9		7	7			32
お誕生会	5				1			1	1		1	2	11
合計	13	9	13	19	10	8	20	12	16	16	1	15	152

《ふじユニット》

(入浴実施状況：2回／週)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
仰臥位入浴	33	42	47	54	47	41	43	53	55	44	34	52	545
座位入浴	20	18	18	12	5	5	12	11	8	5	4	9	127
自立補助入浴	7	7	6	6	8	5	8	8	8	7	6	8	84
清拭				6	15	26	3		4	15	29	5	103
シャワー浴			1				1			5		1	8
合計	60	67	72	78	75	77	67	72	75	76	73	75	867

(行事・レク実施状況)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
外出、買い物、外食	0	2	2	0	0	0	6	1	0	2	0	2	15
美容、理容	6	8	4	5	8	7	7	8	4	5	6	7	75
季節行事	5			4		9	6		9	9		9	51
お誕生会		1		1				2		2	1	1	8
合計	11	11	6	10	8	16	19	11	13	18	7	19	149

《いちょうユニット》

(入浴実施状況)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
仰臥位入浴	17	19	29	25	28	22	26	25	29	22	20	36	298
座位入浴	18	18	22	18	17	16	22	23	21	21	11	17	224
自立補助入浴	24	33	29	25	30	25	26	27	28	23	16	21	307
清拭	6			7	17	17	2	3	9	11	17	2	91
シャワー浴													
合計	65	70	80	75	92	80	76	78	87	77	64	76	920

(行事・レク実施状況)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
美容・理容など	6	7	4	7	6	8	6	6	6	7	2	6	71
外出・外食・買い物			1										1
季節行事												10	10
お誕生会		1		1	3	1			1			2	9
合計	6	8	5	8	9	9	6	6	7	7	2	18	111

給食栄養状況

栄養ケアマネジメントの実施により、一人ひとりの栄養ケアプランが十分に実施されるよう、他職種協働で取り組みを行い、利用者の個別性に対応している。

栄養ケアマネジメント

月	ケアマネジメント実施数 (人)	低 リスク	中 リスク	高 リスク	リスク 未定	合 計
4月	29	9	12	8	0	29
5月	29	10	10	9	0	29
6月	30	10	12	8	0	30
7月	28	12	7	9	0	28
8月	27	10	11	6	0	27
9月	30	11	15	4	0	30
10月	28	13	9	6	0	28
11月	30	15	11	3	0	29
12月	29	15	11	3	0	29
1月	28	14	10	4	0	28
2月	28	14	12	2	0	28
3月	28	14	12	2	0	28
合 計	344	147	132	64	0	
月平均	28.7	12.3	11.0	5.3	0.0	

栄養ケアマネジメントによる一人ひとりへの細かいプランを立て実施している。低栄養改善への早期アプローチにて、健康増進に繋げている。

食事の状況

	主 食					副 食				
	普通	握食	粥食	ミキサー	経管	普通	刻食	ミキサー	ソフト	経管
居 室	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0
食 堂	11	3	7	2	0	12	2	3	7	0
合 計	11	3	7	5	0	12	2	5	7	0

行事食の献立状況

月 日	行 事 名	献 立
4/4	春の行事食	ちらし寿司・絹揚げと豚肉の煮物・菜の花となめこの和え物・味噌汁
5/5	こどもの日	オムライス(野菜ソース)・エビフライ(レモンタルタルソース)・コンソメスープ・手作りメロンゼリー
6/16	父の日	赤飯・赤魚の山椒焼き・高野豆腐と豚肉のサイコロ煮・白菜の洋風お浸し・茶碗蒸し
6/22	夏至の行事食	天井・茶碗蒸し・オクラの和え物・メロン
7/7	七夕	稲荷寿司・七夕ソーメン・白菜と豚肉の塩煮・さつまいものサラダ
7/24	大暑の行事食	ちらし寿司・太刀魚の塩焼き・蒸しなす・そうめん汁・抹茶ようかん
8/9	立秋の行事食	とうもろこし御飯・キスの南蛮漬け・夏野菜サラダ・たまごスープ・すいか
8/14	お盆	ごはん・銀ひらすの香味焼き・大根と人参の金平・手作り味付きごま豆腐・味噌汁
9/9	重陽の節句	ちらし寿司・なすの田舎煮・アスパラのお浸し・茶碗蒸し
9/17	いもたき会	いもたき・ゆかりおにぎり・小松菜の和え物・洋なし
10/3	寒露の行事食	御飯・和風ハンバーグ・もやしの和え物・さつまいもの味噌汁・牛乳かん(柿ソース)
11/27	小雪の行事食	御飯・肉団子の酢豚風・大根の煮物・白菜と卵のスープ・りんごコンポート
12/27	クリスマス	豆ごはん・レモンペッパーチキン・コールスローサラダ・ジュリアンスープ・ケーキ
12/31	大晦日(夕食)	年越しうどん(えび天)・絹揚げと豚肉の煮物・みかん缶
1/1	お正月(祝い膳)	赤飯・有頭海老の旨煮・合鴨スモーク・ほたて煮・数の子・寿高野の煮物・伊達巻・玉子・絵馬蒲鉾・花三色・カニカマ・六角里芋煮・昆布巻き・黒豆煮・若桃の甘露煮・栗きんとん
1/28	大寒の行事食	御飯・天ぷらの盛り合わせ・白菜の和え物・豚汁・うぐいす豆
2/2	節分	ちらし寿司・鶏ごぼう・マカロニサラダ・いわしのつみれ汁
2/19	雨水の行事食	田舎ちらし・厚揚げの煮物・大根サラダ・すまし汁・フルーツポンチ
3/3	ひな祭り	雛形寿司・筍と豚肉の炒り煮・茶碗蒸し・フルーツ缶
3/22	春分の行事食	鯛めし・玉子焼き(里芋そぼろ入り)・菜の花の和え物・すまし汁・ヨーグルト

短期入所生活介護の利用状況

R6.3.31現在

		合計	R06_04	R06_05	R06_06	R06_07	R06_08	R06_09	R06_10	R06_11	R06_12	R07_01	R07_02	R07_03
稼働日数		365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	13.2	11.7	14.4	14.6	13.7	11.7	14	13.8	13.8	12.1	13.4	11.6	13.5
	男	0.9	1	1.4	1.3	1.1	0.4	0.9	1.1	0.8	0.4	0.9	0.6	0.6
	女	12.3	10.7	12.9	13.3	12.6	11.4	13.1	12.7	13	11.6	12.5	11.1	12.9
利用延べ人数	計	4820	350	445	438	426	363	421	429	414	374	416	326	418
	男	320	30	44	38	35	11	28	35	24	13	27	16	19
	女	4500	320	401	400	391	352	393	394	390	361	389	310	399
介護度別														
平均要介護	計	2.7	2.6	2.6	2.6	2.7	2.7	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6
	男	2.7	2.4	2.3	2.5	2.8	3	3.1	2.7	2.8	2.7	2.8	2.8	3.4
	女	2.7	2.6	2.6	2.6	2.7	2.7	2.7	2.8	2.7	2.7	2.7	2.5	2.6
非該当	計													
	男													
	女													
要支援1	計													
	男													
	女													
要支援2	計	107	8	9	6	6	12	8	8	10	9	11	9	11
	男													
	女	107	8	9	6	6	12	8	8	10	9	11	9	11
要介護1	計	638 17	51	74	77	53	45	60 1	60	42	39	50	39	48 16
	男	26	4	7	4				4		2	3	2	
	女	612 17	47	67	73	53	45	60 1	56	42	37	47	37	48 16
要介護2	計	1566	130	148	137	133	113	97	113	124	134	147	132	158
	男	79	11	17	10	8		2	4	6	4	8	5	4
	女	1487	119	131	127	125	113	95	109	118	130	139	127	154
要介護3	計	1171 4	64	93	101	115 3	93 1	137	118	123	90	86	66	85
	男	192 3	15	20	24	27 3	11	24	27	18	5	9	5	7
	女	979 1	49	73	77	88	82 1	113	91	105	85	77	61	78
要介護4	計	1163 3	92	113	105	108	87	102	105	104 1	77	100	73 1	97 1
	男	12										5	2	5
	女	1151 3	92	113	105	108	87	102	105	104 1	77	95	71 1	92 1
要介護5	計	175	5	8	12	11	13	17	25	11	25	22	7	19
	男	11						2			2	2	2	3
	女	164	5	8	12	11	13	15	25	11	23	20	5	16
その他	計													
	男													
	女													
居住区分別														
1・2外型個室	計	24				3	1	1		1			1	17
	男	3				3								
	女	21					1	1		1			1	17
1・2外型個室	計													
	男													
	女													
従来型個室	計													
	男													
	女													
多床室	計	4796	350	445	438	423	362	420	429	413	374	416	325	401
	男	317	30	44	38	32	11	28	35	24	13	27	16	19
	女	4479	320	401	400	391	351	392	394	389	361	389	309	382
構成比(%)														
介護度別														
非該当														
要支援1														
要支援2		2.2	2.3	2	1.4	1.4	3.3	1.9	1.9	2.4	2.4	2.6	2.8	2.6
要介護1		13.2	14.6	16.6	17.6	12.4	12.4	14.3	14	10.1	10.4	12	12	11.5
要介護2		32.5	37.1	33.3	31.3	31.2	31.1	23	26.3	30	35.8	35.3	40.5	37.8
要介護3		24.3	18.3	20.9	23.1	27	25.6	32.5	27.5	29.7	24.1	20.7	20.2	20.3
要介護4		24.1	26.3	25.4	24	25.4	24	24.2	24.5	25.1	20.6	24	22.4	23.2
要介護5		3.6	1.4	1.8	2.7	2.6	3.6	4	5.8	2.7	6.7	5.3	2.1	4.5
その他														
性別														
男		6.6	8.6	9.9	8.7	8.2	3	6.7	8.2	5.8	3.5	6.5	4.9	4.5
女		93.4	91.4	90.1	91.3	91.8	97	93.3	91.8	94.2	96.5	93.5	95.1	95.5

【令和6年度 利用者年齢層×介護度】

利用者／介護度	事業対象者		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他	合計
	計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
65～69歳	男						1				1
	女										0
	計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
70～74歳	男										0
	女						1				1
	計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
75～79歳	男										0
	女										1
	計	0	0	0	0	1	1	0	0	0	4
80～84歳	男										1
	女					1	1				3
	計	0	0	0	2	4	4	1	1	0	17
85～89歳	男					1	1		1		5
	女					3	3	1			12
	計	0	1	5	3	3	3	1	0	0	21
90歳以上	男						3				3
	女					3					18
	計	1	0	0	0	11	7	7	5	0	41
合計	男					4	1	1	2		9
	女	1				7	6	6	3		32
	計	1	1	7	7	19	25	9	6		85
合計	男	0	0	0	0	5	4	1	3		19
	女	1	1	7	7	14	21	8	3		66
	計	1	1	7	7	19	25	9	6		85

※平均年齢：88.3歳で（男性86.9歳 女性88.7歳）
 最高齢者は、男性で97歳、女性で103歳
 ■平均介護度：2.1（要支援を除く）

令和7年3月31日現在

グループホームふたばの森

目標及び課題	具体的取り組み
(1) 地域福祉サービスの創造と展開	① 運営推進会議の中から事業所及び地域における課題等を発掘・共有し、社会資源としての役割を発揮しました。 ② 日常的に地域美化活動を実践し地域社会へ貢献しました。
(2) サービスの質の向上	① 愛媛県認知症介護実践者研修1名の受講を行い、認知症介護技術の向上及び人材の育成をはかりました。 ② ICT機器及び記録ソフトの運用から、介護記録の効率化・内容の充実及び利用者ニーズ分析への活用をはかりサービスの質の向上をはかりました。 ③ 認知症介護に特化した事業所特性の強化を図り、利用者ごとのニーズに応じて、認知症介護が主流な利用者は当事業所にて支援継続、身体介護が主流な利用者は特養への入所等の適正なサービス事業への紹介を行いました。
(3) 持続可能な経営基盤の確立	① 目標稼働率の設定年間稼働率98.5%を目標として取り組んでいましたが、当初予想より入院者の増加により年間稼働率98.0%との結果になりました。 ② 人件費の見直し勤務希望・特性に応じた職員の配置を行いました。
(4) その他	① 介護サービスの公表 項目事項の再整備を行いました。 ② 全職員が地域密着型サービス自己評価項目ごとの理解を深め、評価項目の実践を行いました。 ③ 外部講師による法人内研修(年間プログラム)を職員2名に受講させ人間力、現場対応能力の向上をはかりました。

GH利用者の概要

(1)利用者の状況

令和7年3月31日

在所期間の状況

[利用者18名]

期 間	男	女	計	比率(%)
20年以上	0	0	0	0.0
15年以上～20年未満	0	0	0	0.0
10年以上～15年未満	0	0	0	0.0
7年以上～10年未満	0	1	1	5.6
5年以上～7年未満	0	2	2	11.1
3年以上～5年未満	0	4	4	16.6
1年以上～3年未満	1	6	7	38.9
1年未満	0	4	4	16.3
合 計	1	17	18	100.0

年齢構成

区分	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	合計	平均年齢
男	0	0	0	0	1	0	0	0	1	90.0
女	0	0	0	0	3	9	4	1	17	87.4
合計	0	0	0	0	4	9	4	1	18	87.8

要介護度の状況

[要介護度]

介護度	年齢区分	自 立	支 援	1	2	3	4	5	合計	平均
男性	40～64歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	65～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	70～74歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	75～79歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	80～84歳	0	0	0	1	0	0	0	1	2.00
	85歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
女性	40～64歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	65～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	70～74歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	75～79歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	80～84歳	0	0	1	0	1	0	1	3	2.67
	85歳以上	0	0	1	5	6	2	0	14	2.57
	男 性	0	0	0	1	0	0	0	1	2.00
	女 性	0	0	2	5	7	2	1	17	2.71
	合 計	0	0	2	6	7	2	1	18	2.67
前年度実績		0	0	3	4	8	3	0	18	2.44

(2)入退居状況

利用者状況

〔月別新規入居者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女	0	2	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	5
計	0	2	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	5

〔入居前住居〕

区分	在宅	病 院			介護施設			その他施設	合計
		一般病棟	精神病棟	療養病棟	介護療養施設	老人保健施設	特別養護老人 ホーム		
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女	3	1	0	0	0	1	0	0	5
計	3	1	0	0	0	1	0	0	5

〔新規利用者世帯状況〕

	単身	夫婦	未婚子同居	既婚子同居	その他	合計
男	0	0	0	0	0	0
女	2	0	0	3	0	5
計	2	0	0	3	0	5

退居者状況

〔退居理由〕

	家庭復帰	入院継続	施設入居	死亡(病院)	死亡(GH)	合計
男	0	1	0	0	0	1
女	0	4	0	0	0	4
計	0	5	0	0	0	5

〔月別退居者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
女	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	4
計	0	2	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	5

(3) 日常生活動作状況・生活自立度・認知症の判定

日常生活動作の状況

[利用者 18 名]

項目	動作内容	男	女	計	項目	動作内容	男	女	計
移動	時間がかかっても介助なしに一人で歩く	1	7	8	入浴	やや時間がかかっても介助なしに一人で行える	0	1	1
	手を貸してもらするなど一部介助を要する	0	8	8		体を洗ってもらするなど一部介助を要する	1	11	12
	全面的に介護を要する	0	2	2		全面的に介護を要する	0	5	5
食事	やや時間がかかっても介助なしに食事する	1	10	11	着替	やや時間がかかっても介助なしに一人で行える	0	4	4
	おかずを刻んでもらうなど一部介助を要する	0	5	5		袖を通してもらうなど一部介助を要する	1	11	12
	全面的に介護を要する	0	2	2		全面的に介護を要する	0	2	2
排泄	やや時間がかかっても介助なしに一人で行える	0	7	7	整容	やや時間がかかっても介助なしに一人で行える	0	1	1
	便器に座らせてもらうなど一部介助を要する	0	8	8		タオルで顔をふいてもらうなど一部介助を要する	1	13	14
	全面的に介護を要する	1	2	3		全面的に介護を要する	0	3	3

日常生活自立度（寝たきり度）

[利用者 18 名]

ランク J 生活自立	何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。	
	1 交通機関等を利用して外出する。	0
	2 隣近所なら外出する。	0
ランク A 準寝たきり	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。	
	1 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。	2
	2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。	8
ランク B 寝たきり	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッドの上での生活が主体であるが座位を保つ。	
	1 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。	5
	2 介助により車椅子に移乗する。	3
ランク C 寝たきり	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。	
	1 自力で寝返りをうつ。	0
	2 自力では寝返りもうたない。	0

認知症老人の日常生活自立度判定

[利用者 18名]

項 目	認 知 症 の 程 度	
正 常	認知症の症状無し	0
ランクⅠ	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	0
ランクⅡ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。	
	a 家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。	0
	b 家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。	1
ランクⅢ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	
	a 日中を中心として、上記Ⅲの状態が見られる。	5
	b 夜間を中心として、上記Ⅲの状態が見られる。	3
ランクⅣ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ常に介護を必要とする。	8
ランクⅤ	著しい精神症状や問題行動やあるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする	1

受 診 状 況

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均
受診人数	13	16	16	16	15	16	17	15	16	15	17	16	188	15.7	0.5
受診回数	30	30	26	32	30	33	30	24	25	33	31	26	350	29.2	1.0

入居前のかかりつけ医への受診を継続的に支援している。

入 院 状 況

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均
実人数	1	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	5	0.4	入院人数
延日数	11	6	0	0	9	12	0	0	0	0	0	0	38	3.2	

行 事

実施月	1階ユニット（どんぐり）	2階ユニット（くるみ）
4月	お花見（敷地内） ※敷地内	外食（スシロー）
5月	ケーキ作り	母の日をお祝いしよう
6月	あじさい・菖蒲見物（ドライブ）	あじさい見物・手作りギョウザ
7月	そうめん流し（敷地内）	そうめん流し（敷地内）
8月	花火会	外食（スシロー） うなぎ焼きとバーベキュー
9月	ドライブ（秋の始まり観察）	芋炊会
10月	芋炊き	食欲の秋を満喫
11月	海鮮お好み焼きづくり	別子ラインドライブ 外食
12月	お餅つき	お餅つき
1月	初詣	初詣
2月	手作りバレンタイン	梅見物（ドライブ）
3月	桜見物（ドライブ）	桜見物（ドライブ）

コロナ禍のため、外出行事は控え、事業所内で行事を行っている。